

生徒が生き生きと取り組める自立活動を目指して

1 テーマ設定の理由

本校では「自己の力を最大限に伸ばし、いきいきとして、心豊かに、たくましく生きていく人を育成する」という学校教育目標を掲げている。それを受け、目指す学校像を「みんな“ていねい”に生きる学校」とし、幼児児童生徒が一時一時を大切に生きその持てる力を高められる学校や、教職員がやりがいを感じて職務に取り組む学び合いで成長できる職場等を目指しながら、日々の教育活動を行っている。

上記に示した学校教育目標及び目指す学校像を受け、本校では個々の教育的ニーズを踏まえ、「一人一人の思いを読み取り自己実現を目指す授業・活動づくり」について研究を進めてきた。今年度、所属学部の中学部では自立活動の時間における指導について研究することになった。中学部では、本校の研究テーマのもと上記のサブテーマを設定した。自身においても生徒が主体的に活動できる自立活動を模索したいと考え、上記テーマを設定した。

2 今年度の取組

(1) 本校の現状

運動グループには、6名の生徒が所属している。その中には、肥満傾向であったり、周囲の状況に合わせて行動することが苦手であったりする生徒が多い。昨年度までは、授業の中でランニングやバランスボール、一緒に歩く、ラダーなどを行っていた。昨年度から継続して運動グループに所属している生徒がおり、環境が大きく変わることを苦手とする生徒も多かったため、今年度も活動内容をあまり変えずに行うようにしてきた(図1)。その授業の中で生徒一人一人の思いを読み取ったり、本グループでの授業における自己実現について考えたりしながら、授業づくりを行うようにした。

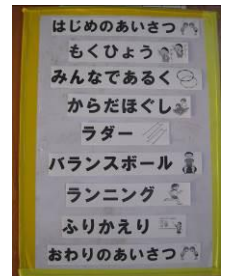


図1 第1回研究授業
までの授業の流れ

なお、中学部では自立活動を火曜日から金曜日の1時間目に行っており、コミュニケーショングループ(3グループ)、運動グループ、個別の自立グループに分かれている。私の所属する運動グループには20歳代から50歳代までの幅広い年代の教員が指導にあっており、メンバーの中には2年目研修を受講している教員もいる。今年度は教育実践研究のテーマを2年目研修の受講者と2人で統一し、一緒にグループ研究に取り組んできた。

(2) 取組みの経過

5月26日(金) 参加者：運動グループを指導する教員8名

昨年度までの授業の流れは、生徒たちが授業の目標の確認をしたり反省をしたりする場面がなく曖昧になっていた。そこで今年度は生徒一人一人に目標を立てさせることにし、まずは活動の中から生徒自身に目標を決めさせることとした。目標決めは生徒だけに委ねるので

はなく、本人の思いをもとに自己実現している姿を教師が考え、そのための自立活動の時間の中での目標を設定するようにした。

目標に対する反省では、生徒一人一人の目標に応じた活動場면을 iPad でビデオ撮影し、それを確認させることで振り返ることとした。そして、目標を達成することができたらシールを貼る流れにした(図2)。



図2 第1回研究授業までの振り返りカード

9月13日(水) 参加者: 中学部全教員、他学部教員など36名

1学期から授業の流れや活動について、検討・実践してきたことを踏まえ、第1回の研究授業を行った。また、放課後には授業研究会が行われ、多くの意見やアドバイスをいただくことができた。

まず、授業全体の内容量について取り組んでいた指導内容が多く、一つ一つ丁寧に教師が指導したり子どもも意識したりすることが難しいのではないかという意見が出た。確かに、限られた時間の中で、盛りだくさんの内容に取り組んでおり、授業時間内に授業を終わらせることに教師は意識が向いていた。その結果、各活動をこなしていくようになってしまっていたという反省がある。そのようなこともあり、生徒が目標を設定したり個々の目標を教師と一緒に確認したりするという時間をきちんととることが難しかった。

また、目標達成に向けた教師の支援や生徒が「できた」ことを実感し、また「がんばろう」と思えるような手立て等、工夫することの必要性を感じた。生徒たちが目標に向かって精一杯努力し、意欲的に活動することを継続させていくことが生徒一人一人の自己実現につながっていくと考えた。

振り返り場面においても、iPad でビデオ撮影し、それを教師と一緒に確認することで目標を達成できたか評価を行ってきた。しかし、映像をしっかりと見られなかったり、教師からの「できましたか」の問いかけに対して(できていなくても)「できました」と答えたりする姿が見られ、適切に振り返ることの難しさを感じた。そこで、評価方法を再考する必要があると感じた。

12月12日(水) 参加者: 中学部全教員、他学部教員など35名

前回の授業研究会後、グループで検討を重ね、第2回の研究授業を行った。また、放課後には授業研究会が行われた。

授業全体の流れについて、図3のように指導内容を精選した。そして目標設定の際、何を目標にがんばるのか生徒の思いを毎回確認するようにした(図4)。

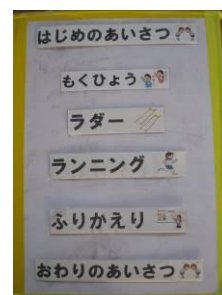


図3 第2回研究授業授業の流れ

また、ラダーでは教師の声かけがなくても生徒が自ら目標を達成できるように、どのように並べばよいのかテープで作ったり、並ぶ位置を示したりした。さらにランニングでは、その日だけでなく継続して意欲的に取り組めるよう、目標周数以上走ることができたらさらにシールをもらえるようにした。

評価方法については、後で映像で振り返るのではなく、目標達成ができたかその時々でその場ですぐに振り返り、○×で評価するようにした。そして最後の振り返りの場面で、それらを見ながら「できた」か「できなかった」か確認するようにした。



図4 第2回研究授業で用いた振り返りカード

(3) 取組みの成果及び課題

授業の中での活動量を減らし、丁寧に目標の聞き取りを行うことで、生徒一人一人の思いを大切に授業を行うことができるようになった。ラダー、ランニングともに、何に気を付けたり何をがんばったりしたいのか、生徒自身も自分でしっかり意識しながら活動に取り組む姿が見られるようになった。

ラダーでは、支援具を用意したことで生徒たちの様子に大きな変化が見られた。それまではその場で立っていられずにふらふらしてしまったり、順番をとばしてしまったりすることがよく見られた。しかし、テープがあることで教師に注意されなくても自分でテープを見てその上に立っていたり、「○番目」と自分で言いながら順番に並んだりする姿が見られるようになった。また、ランニングでは、これまでも目標周数を走りきろうと一所懸命走る姿が見られてはいた。しかし、さらにシールをもらえるということで生徒たちのモチベーションもより上がった。目標周数を走り終わっても、時間になるまでペースを落とさず完走する生徒の様子も見られるようになった。

評価場面では、生徒たちに分かりやすいよう○×で即時評価を行うことで、「できた」「できなかった」を適切に振り返ることができるようになった。振り返りの場面で、○だったのか×だったのかを視覚的に理解できるようにしたことは有効であったと思われる。

4月からこれまで継続して取り組み、この授業でできるようになったことや身についた力が、他の授業や日常生活場面において生かされていると感じたことがあった。例えば、体育で跳び箱を跳ぶ際きちんと一列に並ぶことができるようになったり、寄宿舎の舎外活動でボーリングに行った時には投げる順番を守ったりすることができた。また業間体育のランニングや体育の長距離走でも最後まで歩かずに走りきる等、体力面の向上が見られた生徒もいた。

一方で、生徒の思いを踏まえた授業から自己実現にどのようにつなげていけばよいのか悩むことがある。自立活動の時間における指導の中で、生徒の自己実現を踏まえた目標をどのように設定すればよいのか、今後も検討していく必要がある。

3 今後の展開

今年度は生徒一人一人の思いを読み取り、それらの実現を目標にしながら授業づくりを行ってきた。できるようになりたいことやがんばること等、生徒たちの思いを大切にできた結果、モチベーションも下がらずに、これまで継続して取り組むことができたのだと思う。生徒たちも目標が達成できたときには、「できた！」と喜んだり満足げな表情を見せてくれたりした。今後も生徒の気持ちに寄り添いながら、自己実現を目指す授業についてグループで内容を再考していきたい。そして生徒が自立活動の時間だけでなく学校生活の中で生き生きと取り組める場面が増えるよう支援を続けていきたい。